



Q&A

## シスコ ネットワーキング アカデミー プログラム Cisco CCNA の新カリキュラム

### 新カリキュラムと資格認定試験

**Q 2つの新しいCCNA®カリキュラムを新設したのはなぜですか。**

- A. CCNA の新しいカリキュラムは、管理者やインストラクタ、受講生の皆様のご意見に応えるかたちで新設されました。上級学習者向けの CCNA カリキュラム (CCNA「探究」) と基礎学習者向けの CCNA カリキュラム (CCNA「発見」) は、それぞれ学習履歴や目標が異なる受講生を対象としています。学習履歴や関心の異なる受講生にそれぞれ違った指導法を用いることで、受講生がそれぞれの目標を達成できるようサポートすることができます。そのため、受講生にとっても、インストラクタにとっても、より満足度の高いカリキュラムとなっており、受講率の向上が期待できます。

カリキュラムはいずれも、IT 技術者としてのキャリアや CCNA 資格認定試験を目指す受講生のために編成されています。CCNA「探究」は、高度な問題解決能力や分析力を備え、工学、数学などの理工系学位を取得したいと考える受講生に適したカリキュラムです。総合大学や単科大学、専門学校、技術学校など、高等教育機関の技術教育課程または社会教育プログラムの一環として組み込むことができるようになっています。一方、CCNA「発見」は、パソコンの基本的な使い方を身につけている受講生に適したカリキュラムとなっており、中等教育機関をはじめ、専門学校や技術学校、単科大学などの独立したカリキュラムとして、またより幅広い教育課程の一部として実施することができます。

例えば、CCNA「探究」の受講生は、二進法の知識があり、アルゴリズムの概念を理解していることが前提となりますが、CCNA「発見」の受講生は、これらの知識を身につけている必要はなく、カリキュラムを通して幅広く解説し、二進法計算機などのツールを提供します。

**Q そのような違いがある中で、CCNA「探究」とCCNA「発見」は、CCNA資格にどのように対応することができるのですか。**

- A. CCNA「探究」とCCNA「発見」では、扱っている内容は同じですが、それぞれが対象とする受講生に適した方法で指導を行ないます。どちらのカリキュラムも、受講生は、実用的で効果の高い授業を受けることができ、それぞれの学習履歴や目標に合った方法で学習内容を確実に身につけることができます。

### 主な特長と e-Doing

**Q CCNA「探究」とCCNA「発見」にはどんな特長がありますか。**

- A. CCNA「探究」とCCNA「発見」は、IT 技術者としてのキャリアや CCNA 資格認定試験を目指す受講生のために編成されています。



CCNA「探究」とCCNA「発見」には、以下のような新しい特長があります。

- 「e-Doing」を組み込み、コンピュータの機能を用いてガイダンスを行ったり、また考察や実習の機会を提供。
- 新しいグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) を導入し、魅力的な『ルック アンド フィール (見た目や使い心地)』とインタラクティブな学習を通じて、受講生を円滑に指導。
- アドバンスド テクノロジーやコンバージド ネットワークの初歩を学習。
- 複数の言語で提供できるよう、翻訳のしやすさも考慮されたデザイン。

#### CCNA「探究」の主な特長：

- 高度な問題解決能力や分析力を備え、工学、数学などの理工系の受講生に最適。
- 専門学校や技術学校、単科大学、総合大学など、高等教育機関の統合カリキュラムまたは社会教育プログラムの一環として組み込むことが可能。
- 標準的な単科大学や総合大学レベルに相当する理論的かつ実践的な指導方法により、スキルを厳密かつ総合的に習得することが可能。
- 他の工学概念と結びつけることが可能な専門用語を使用。
- ネットワーキングの基礎から最先端のアプリケーションやサービスまで、幅広いトピックスを総合的に学習。
- 複雑で難易度の高い実践的な実習。
- 柔軟なコース提供が可能。
- カリキュラムの全 4 コース修了後には、継続教育や IT 技術者としてのキャリアを目指すことができる実力を身につけることが可能。

#### CCNA「発見」の主な特長：

- パソコンの基本的な使い方を身につけている受講生に最適。
- 中等教育機関をはじめ、専門学校や技術学校、単科大学などの独立したカリキュラムとして、またより幅広い教育課程の一部として実施することが可能。
- ネットワークを日常生活に直結して捉え、実際に受講生が遭遇すると考えられるネットワーク環境をベースに、ネットワークの重要な概念を網羅。Small Office Home Office (SOHO) 環境のネットワークをはじめ、カリキュラムの後半では、より複雑な大企業環境や理論的なネットワーク モデルについても学習。
- 実践を重視し、ネットワークについて実践的でキャリアを重視した学習方法を提案。
- 実践やキャリアに活かせるよう、ネットワークの実際的な応用に力を入れた学習活動。

- 4カリキュラムのコースを受講する中で、随時応用力を養うことができるため、ITを実生活に関連づけ、受講生のさらなる学習意欲を掻き立てるほか、IT技術者として第一歩を踏み出すための基礎を身につけることが可能。

**Q e-Doingとは何ですか。**

- A. e-Doing は、コンピュータを使ったインタラクティブな学習が最も効果的な学習方法であるという原理にもとづいた設計理念です。シスコ ネットワーキング アカデミー プログラムでは、現在まで実用的な学習を重視してきました。e-Doing は、この実習を重視する考え方を、コンピュータを使った学習にも応用しようという試みです。e-Doing では、科学的事象を視覚化し、ネットワークをシミュレーションするツールを使って考察や実習を行ない、フィードバックや相互な学習を充実させるなど、受講生の積極的な取り組みが重要視されています。また、受講生の日常生活や就業のための目標に関連づけることのできるコース目標が各課ごとに設定されており、受講生の目標設定がしやすく設計されています。

**Q e-DoingがCCNAの新しいカリキュラムにとってそれほどまでに重要なのはなぜですか。**

- A. 新しいカリキュラムに e-Doing を組み込むことで、インストラクタがインタラクティブで多様な学習指導を行えるようにするためのツールキットを効果的に作成することができます。その特長は、以下のとおりです。
- 現実に即したシナリオや実際の例を使って、新しい概念やスキルを指導。
  - 練習やフィードバックの機会を数多く提供。
  - コンピュータを使って、複雑な概念を視覚化。
  - Packet Tracer などのツールや Flash ベースのインタラクティブな学習を通じて、ネットワークワーキングの概念について考察し、実習を行なうことで、受講生がネットワーク技術の理解を深めることができるようサポート。
  - コンソールを使った演習の機会を増やし、実際の機材を使った実習を補うため、ネットワーク シミュレーションを実施。
  - 国際的かつ多文化的なシナリオを採用。
  - 教室でのディスカッションや演習、宿題などにも、具体的なシナリオや例を数多く使用。
  - 視聴覚教材や実習など、さまざまな学習スタイルに対応した学習方式を採用。

## 編入

**Q CCNA「発見」からCCNA「探究」への編入制度は用意されていますか。**

- A. CCNA「探究」と CCNA「発見」は、それぞれ異なる指導方法を用いて、受講生に CCNA 資格認定試験に合格できる実力を身につけてもらうことを目的として編成されています。編入については、通常、各教育機関が既存のプログラムや編入制度にもとづいて独自に定めることとなります。ご参考までにコースの内容について記すと、CCNA「発見」のコース 1 とコース 2 に加え、コース 2 に含まれる VLSM の補足演習を修了した受講生は、CCNA「探究」コース 1 と同等の内容を理解したとすることができます。

**Q CCNA「探究」またはCCNA「発見」を修了すれば、CCNPコースを受講するための実力を養うことができますか。**

- A. はい。CCNA「探究」(全 4 コース)または CCNA「発見」(全 4 コース)を修了することにより、CCNP カリキュラムを受講するための実力を身につけることができます。また、教育機関によっては、CCNA「発見」カリキュラムを修了した受講生に CCNA「探究」の単位を与えるようにすることも可能です。

## 機材



**Q CCNA「探究」やCCNA「発見」のために用意しなければならない機材は何ですか。**

- A. 既設のアカデミーの場合は、新しい機材の費用が若干必要となるか、まったく不要かのどちらかになるでしょう。機材の在庫状況、価格、割引制度は地域によって異なるため、具体的な費用につきましては、CATC にお問い合わせください。ご参考までに、各地域の技術マネージャーをご紹介します。

新カリキュラムはまだ開発途中であり、現時点では、具体的な機材のリストを提供することができません。予算編成にお役立ていただくため、以下に予定リストをご用意いたしました。既設のアカデミーの皆様には、極力新しいサービス統合型ルータ (ISR) をご購入いただくようお勧めしていますが、CCNA「探究」または CCNA「発見」を提供するための必要条件ではありません。これから新規に開設されますアカデミーの皆様には、新しい ISR をご購入いただくようお願いしています。

アカデミーの種類	ポッド当たりの上限見積額
現行の CCNA v3.1 から CCNA「探究」カリキュラムへ 移行するアカデミー	現行の CCNA バンドル (下記のリンクを参照) をお持ちの場合、追加費用はありません。新カリキュラムでは、実際の機材を構内に 1 ポッド以上設置することが必要となります。1 ポッドで、同時に 4 人までの受講生に対応できます。標準的なポッドには、IOS ルータ 3 台、IOS スイッチ 2 台、シリアル ケーブルが含まれます。この標準ポッドの他に、一般的な実習設備として、デスクトップ PC3 台、イーサネット ケーブル、ケーブルの作成とテストを行なうための設備が必要です。これらは、現行の CCNA カリキュラムに必要な追加コンポーネントと同じですので、追加費用は発生しません。また、オプションの機材としては、ワイヤレス デバイスや ISR などがあります。ワイヤレス デバイスが必要な演習については、当座の対応策として、新カリキュラムに組み込まれている e-Doing 機能を使用することで対応できます。
CCNA「探究」を開講する 新規アカデミー	米国表示価格の上限見積額は、アカデミー割引前の価格で、ポッド当たり 10,000 ドルとなります。新カリキュラムでは、実際の機材を構内に 1 ポッド以上設置することが必要となります。1 ポッドで、同時に 4 人までの受講生に対応できます。標準的なポッドには、ISR3 台、IOS スイッチ 2 台、シリアル ケーブルが含まれます。この標準ポッドの他に、一般的な実習設備として、デスクトップ PC3 台、イーサネット ケーブル、ケーブルの作成とテストを行なうための設備が必要です。ポッド当たりの見積価格には、これらの追加コンポーネントの価格は含まれていません。



<p>現行の CCNA v3.1 から CCNA「発見」カリキュラムへ 移行するアカデミー</p>	<p>現行の CCNA バンドル（下記のリンクを参照）をお持ちの場合、新たに必要となるのは、Linksys ワイヤレス ルータまたは同等の SOHO 用ワイヤレス ルータ 2 台の費用のみとなります。米国表示価格の上限見積額は、アカデミー割引前の価格で、ポッド当たり 500 ドルとなります。新カリキュラムでは、実際の機材を構内に 1 ポッド以上設置することが必要となります。1 ポッドで、同時に 8 人までの受講生に対応できます。標準的なポッドには、Linksys ワイヤレス ルータまたは同等の SOHO 用ワイヤレス ルータ 2 台、IOS ルータ 3 台、IOS スイッチ 2 台、シリアル ケーブルが含まれます。この標準ポッドの他に、一般的な実習設備として、デスクトップ PC3 台、イーサネット ケーブル、ケーブルの作成とテストを行なうための設備が必要です。これらは、現行の CCNA カリキュラムに必要な追加コンポーネントと同じですので、追加費用は発生しません。</p>
<p>CCNA「発見」を開講する 新規アカデミー</p>	<p>米国表示価格の上限見積額は、アカデミー割引前の価格で、ポッド当たり 10,000 ドルとなります（デスクトップ PC を除く必要機材の価格）。新カリキュラムでは、実際の機材を構内に 1 ポッド以上設置することが必要となります。1 ポッドで、同時に 8 人までの受講生に対応できます。標準的なポッドには、Linksys ワイヤレス ルータまたは同等の SOHO 用ワイヤレス ルータ 2 台、ISR3 台、シリアルケーブルが含まれます。この標準ポッドの他に、一般的な実習設備として、デスクトップ PC3 台、イーサネット ケーブル、ケーブルの作成とテストを行なうための設備が必要です。ポッド当たりの見積価格には、これらの追加コンポーネントの価格は含まれていません。</p>

現行の CCNA バンドルについては、下記の Web サイトをご覧ください。

<http://cisco.netacad.net/cnams/content/library/curriculum/Ccna.jsp>

**Q 新カリキュラムでは、実習用バンドルの代わりにPacket Tracerを使用することはできますか。**

A. いいえ。Packet Tracer では、CCNA の実習用機材の代わりにはなりません。ネットワーキング アカデミー プログラムでは、実習には実際の機材を使用することを推奨しています。これこそが、他のプログラムとは一線を画している所以です。新カリキュラムに組み込まれている Packet Tracer シミュレーションは、補助的なものとして使用し、教室での実習環境では再現できない事象について学習する機会を提供するために設計されています。

## トレーニング

**Q CCNA「探究」とCCNA「発見」を指導するために、インストラクタはどのようなトレーニングを受ける必要がありますか。**



- A. 現在 CCNA の指導にあたっているインストラクタの皆様の場合、トレーニングの受講は任意となりますが、受講されることを強くお勧めしています。ネットワーキング アカデミーでは、自己学習型の通信学習ソリューションを無償で提供したいと考えています\*。ぜひ自己学習型の通信学習を修了し、新しいテクノロジーや指導法について学んでください。コース当たりの推奨学習時間は、CCNA「探究」の場合、各コースにつき最低 4～8 時間、CCNA「発見」の場合、各コースにつき最低 8～10 時間となっています。任意のトレーニング教材は、CCNA の新カリキュラムが開講する約 1 ヶ月前に提供を開始する予定です。

CCNA v3.1 のインストラクタ トレーニングをまだ修了されていない新しいインストラクタの皆様には、対面式のトレーニングに加え、オンライン評価、スキル別評価を受けていただく必要があります。コースあたり約 60～80 時間のトレーニングが必要となりますが、これは、現行の CCNA v3.x のトレーニングに必要な学習時間とほぼ同じです。

\*CATC またはトレーニング アカデミーによっては、シスコが提供する自己学習型の通信学習ソリューションの他に、インストラクタの皆様にも別途トレーニングの機会を提供している場合があります。その場合、各トレーニング アカデミーの取り決めにより、そうした補助的なトレーニングに関連して費用が発生する場合があります。具体的な費用につきましては、所属する CATC またはトレーニング アカデミーにお問い合わせください。

- Q インストラクタのトレーニングにはどのような教材が提供されるのですか。また、どのような環境で提供されるのですか。
- A. インストラクタには、トレーニングにあたって、インストラクタの手引きをはじめ、PowerPoint プレゼンテーションやケーススタディ、実習教材、演習など、さまざまな教材をご用意します。トレーニングには、対面学習、遠隔学習、複合学習、自主学習があります。自己学習型のトレーニングは、現在 CCNA の指導にあたっているインストラクタで、新カリキュラムの導入時に再トレーニングを希望される方のみを対象としています。

## 翻訳

- Q CCNAの新カリキュラムは翻訳されるのですか。
- A. コース内容や評価を含め、カリキュラムを翻訳することは、ネットワーキング アカデミープログラムの拡大戦略と世界的なサステナビリティの取り組みの重要な一部です。シスコは、インストラクタや受講生の皆様のニーズに応えられるよう、CCNA「探究」と CCNA「発見」の翻訳を最大限サポートしていく方針です。CCNA「探究」と CCNA「発見」の各コースは、英語版の提供が開始され次第、翻訳作業をスタートいたします。シスコが対応する言語のロードマップについては、2007 年 6 月～8 月に発表の予定です。

## 移行

- Q CCNA「探究」とCCNA「発見」への移行はどのように進められるのですか。



- A. CCNA の新カリキュラムの開講を決定した教育機関は、各校のニーズに応じて CCNA 「探究」または CCNA 「発見」を導入できます。CCNA v2.x から v3.x への移行の際とは異なり、移行のためのブリッジコースはありません。現在、CCNA v3.1 を開講途中の場合は、CCNA4 までカリキュラムを継続してください。CCNA v3.1 の翻訳版を使用している国では、新カリキュラムの翻訳版の完成を待つか、英語版を採用するかを選択できます。
- Q CCNA 「探究」と CCNA 「発見」が開講されても、CCNA v3.1 のコースは継続されるのですか。
- A. はい、継続されます。現時点では、CCNA v3.1 のコースをすぐに廃止する予定はありません。CCNA v3.1 は、ニーズや認定資格の要件なども考慮し、当面の間、既設校・新設校への提供が継続されます。

### 開講時期

- Q CCNA 「探究」と CCNA 「発見」の開講予定はいつですか。
- A. CCNA 「探究」のコース 1 および 2、CCNA 「発見」のコース 1 および 2 の英語版は、2007 年 6 月～8 月に開講の予定です。CCNA 「探究」のコース 3 および 4、CCNA 「発見」のコース 3 および 4 の英語版は、2007 年 11 月～12 月の開講を予定しています。また、シスコでは、新カリキュラムの他言語への翻訳にも取り組んでいます。シスコが直接行なう翻訳の詳細につきましては、2007 年 6 月～8 月に発表の予定です。日本語版のカリキュラムについては同じ頃の発表を予定しています。
- Q 新カリキュラムについて、開講に先駆けてこれほど早く発表を行なったのはなぜですか。
- A. アカデミーやインストラクタの皆様が、指導計画を策定する上で、これらの変更を充分にご検討いただけるよう、開講日よりかなり早く発表しました。今後計画の変更があった場合は、できるだけ早い段階で皆様にお知らせしたいと考えていますが、一部の詳細についてはまだ最終的な調整を行っており、現時点でお渡しできる資料ではお答えできないこともあります。詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。
- Q CCNA の新コースに関する Cisco Press の書籍はいつ販売されるのですか。
- A. Cisco Press®では、現在、シスコ ネットワーキング アカデミー プログラム チームと協力し、新カリキュラムの CCNA 「探究」と CCNA 「発見」の参考書籍の制作に取り組んでいます。タイトルや出版日などの詳細は、Cisco Press の Web サイトならびに Cisco Press が発行するインストラクタ向けニュースレターで発表する予定です。ニュースレターの購読をご希望の方は、[www.ciscopress.com/newsletters](http://www.ciscopress.com/newsletters) をご覧ください。日本語版カリキュラムのリリースと合わせ、日本での発売も検討されています。